

## 「原風景」ありますか？

### <市内大会を終えて>

人間の記憶ほど不確かなものはありません。つい昨日の事でも、何をしていたのか思い出せないことがよくあります。ところが、数年前、数十年も前の昔のことなのに、今起こっているが如く、鮮烈・鮮明に覚えていることもあります。人には、ある程度の年月が経った後にも、ずっと記憶に焼き付いている、特に幼い日の思い出や風景があります。それがいわゆる「原風景」と呼ばれるものです。

今から 50 年も前の小学校 3 年生の時、近隣の市町村の釣り堀に鯉を卸して売りにいく父の仕事についていきました。5 トントラックの荷台に酸素ボンベ付きの巨大な水槽を載せ、たくさんの生きた鯉を卸すのでした。

怒ってキレると恐ろしく怖い存在の父でしたが、営業先で「お父さんの仕事についてくるなんて偉いね。」などと自分が褒められると、照れて相好を崩す父の顔が忘れられません。

数件あたって営業しましたが、鯉は一匹も売れませんでした。帰りに父とラーメンを食べました。父は終始無言でした。店内の客は我々親子だけで、沈黙の中、麺をすする音だけが虚しく店内に響きました。決して美味しいラーメンではなかったことも味覚とともに鮮明に覚えています。

自営で水産加工業を営み、朝から晩まで働きづめの両親でしたが、なかなか商売がうまくいかず、いろんな商機を探して両親が最も苦悩していたのがちょうどその頃だと知ったのは、やっと商売が軌道に乗り始めた、自分が成人した頃になっただけで後でした。その父もあの世に逝って早 15 年。

生きてきた中で、喜怒哀楽の場面は常にありました。昔を振り返ることもよくあります。しかし、自分がピンチに陥った時、つらくて苦しい時に限って、なぜかきまってこの日のことが鮮明に蘇るの

です。そして、あの時の「やるせなさ」がグッと胸に込み上げてきて、周囲に誰もいなければ大粒の涙が自然にあふれてきます。そして、こんなことでくじけてたまるか、負けてたまるか、という思いをもたらしてくれるのです。

そんなかけがえのない私の「原風景」なのです。

成功体験や楽しかったことを思い出すと、実に晴れ晴れとした気分になり、これから生きる未来への自身や励みになります。しかし、それだけで人は本当に成長できるのでしょうか。もちろん、消し去りたい思い出もあるはずです。トラウマや悪夢のようなつらく悲しい過去や出来事を思い出して苦しむことなども決してあってほしくないことです。

一方で、子どもたちには、自分を前進・成長させるパワーに転換できる「悔しさ」や「屈辱」や「やるせなさ」や「つらさ」や「せつなさ」があるならば、その気持ちをいつまでも忘れないで、その思いを大切にしながらたくましく生きていける人間に成長してほしいと願うのです。

なぜなら、うれしいことや楽しいことより、悲しいことつらいことの方がずっとずっと多い。それが人生だと思うからです。

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

さて、生徒の皆さん、6月の市内大会たいへんご苦労様でした。

私も、できる限りたくさんの方の会場を見て回らせてもらって、多くの新津第二中学校のみんなが頑張っている姿をこの眼に焼き付けてきました。

まず一番に感じることは、先に述べた「原風景」とも関連することです。

人間は2つのパターンに分かれると思うのです。それは、うまくいかなかったことを振り返って、後悔したりいつまでも嘆いたりするタイプと、あっさり忘れ去ったりすぱっと切り替えたりできるタイプと。通常は、後者の切り替えが早い方が美德のように思われがちですが、やっぱり人間が成長するためには、うまくいかなかった

この後悔や、失敗したことや負けたことの悲しみややるせなさの思いを、ずっと胸に秘めてその後の人生に生かすことも大切だと思うのです。

世の中には、負けたりうまくいかなかったら、その場で涙を流して、ちょっと時間が経てばくやしきなんかも忘れ、また普通に生きていける人の方が大多数だと思います。でもそれでは、これまでの努力は時間の浪費で、再び同じような過ちや失敗を繰り返すはずで

次に、あらためてやっぱりスポーツっていいなあ、という思いです。スポーツに限らず、人間が何か一つのことに集中している姿、必死に頑張っている姿は、とても清々しく、一言で実に「かっこいい」姿なのです。目の輝きが普段と違うのです。

ぜひ、生涯を通じて運動やスポーツや芸術・文化活動等にいそしみ、自分が熱中できるものを見つけ、豊かな生き方をして、自分が感動する、周囲に感動を与えられる人生を歩んでほしいと、あらためて感じました。

そして最後に。この大会を通じてあなたは何を得たのでしょうか。勝敗や入賞等の有無よりも大切なものがあつたはずで

それは、周囲から「愛され・応援され・励まされる」人間・チームとして大会を終えられたかどうか。学校に残っていた皆さんも、仲間が必死で頑張っている姿を思描きながら心の中で必死にエールを送ることができたかどうかです。

この市内大会を通じて、あなただけにしか価値を判断することができない賞状やトロフィーを、あなた自身の心に与えることができたかどうか。それが、この市内大会における、皆さんの「振り返り」の最大のポイントです。

今尚心の底に宿る、はかない思い出の父との鯉の行商。「鯉ははかない」。全くその通り。人生ではかないものは「恋」だけではなかったようです。